

1. 需給見通し

農林水産省は、「砂糖及びでん粉の価格調整に関する法律」（昭和40年法律第109号）により、四半期ごとに砂糖および異性化糖の需給見通しを公表している。令和4年9月に「令和4砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第1回）」を公表した（詳細は2022年11月号参照）。

令和4砂糖年度（10月～翌9月）の見通し

【砂糖】

総消費量：178万5000トン（前年度比0.5%増）

総供給量：179万2000トン（同2.5%増）

【加糖調製品】

消費量および供給量：45万8000トン（前年度同）

【異性化糖】

消費量および供給量：77万7000トン（前年度比1.7%増）

表1 令和4砂糖年度における砂糖の需給見通し

(単位：千トン)

		令和3砂糖年度 (実績見込み)	令和4砂糖年度				合計	
			10月-12月	1月-3月	4月-6月	7月-9月		
消費量	分みつ糖	1,743	471.8	407.1	436.9	434.2	1,750	
	含みつ糖	34	7.2	10.6	9.2	8.0	35	
	合計	1,777	479.0	417.7	446.1	442.2	1,785	
供給量	国内産糖	分みつ糖	783	349.2	350.1	41.5	-	741
		含みつ糖	9	1.3	7.3	1.1	-	10
		小計	792	350.5	357.4	42.6	-	751
	輸入糖	分みつ糖	950	292.8	151.2	311.5	278.9	1,034
		含みつ糖	7	1.6	3.1	1.9	0.8	7
		小計	957	294.4	154.3	313.4	279.7	1,042
	合計	分みつ糖	1,733	642.0	501.3	353.0	278.9	1,775
		含みつ糖	16	2.9	10.4	3.0	0.8	17
		小計	1,748	644.9	511.7	356.0	279.7	1,792
期末在庫		381	547.3	641.3	551.1	388.6	389	

資料：農林水産省「令和4砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第1回）」

注1：分みつ糖は精糖ベースの数量、含みつ糖は製品ベースの数量である。

注2：輸入糖の分みつ糖供給量は、機構売買数量である。

表2 令和4砂糖年度における加糖調製品の需給見通し

(単位：千トン)

	令和3砂糖年度 (実績見込み)	令和4砂糖年度				合計
		10月-12月	1月-3月	4月-6月	7月-9月	
消費量	458	109.5	110.8	118.6	118.8	458
供給量	458	109.5	110.8	118.6	118.8	458

資料：農林水産省「令和4砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第1回）」

注1：改正糖価調整法（平成30年施行）に基づき調整金の対象とされた加糖調製品を対象としている。

注2：消費量は対象となる加糖調製品の輸入量（財務省貿易統計より算出）を踏まえて見通しており、供給量は消費量に見合った量が供給されるものとして見通している。

注3：令和4砂糖年度の消費量は、令和3砂糖年度の輸入実績を踏まえて見通している。

表3 令和4砂糖年度における異性化糖の需給見通し

	令和3砂糖年度 (実績見込み)	令和4砂糖年度					合計
		10月-12月	1月-3月	4月-6月	7月-9月		
消費量	764	166.5	173.0	227.2	210.3	777	
供給量	764	166.5	173.0	227.2	210.3	777	

資料：農林水産省「令和4砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第1回）」
注：標準異性化糖（果糖55%ものの固形ベース）に換算した数量である。

2. 輸入動向

【粗糖の輸入動向】

10月の輸入量は前年同月から大幅に増加

財務省「貿易統計」によると、2022年10月の甘しや糖・分みつ糖（HSコード 1701.14-110）および甘しや糖・その他（同1701.14-200の豪州）の輸入量は、7万2219トン（前年同月比16.4%増、前月比39.2%減）であった（図1）。

輸入先は甘しや糖・分みつ糖については米国、甘しや糖・その他については豪州で、国・地域別の輸入量は次の通りであった（図2）。

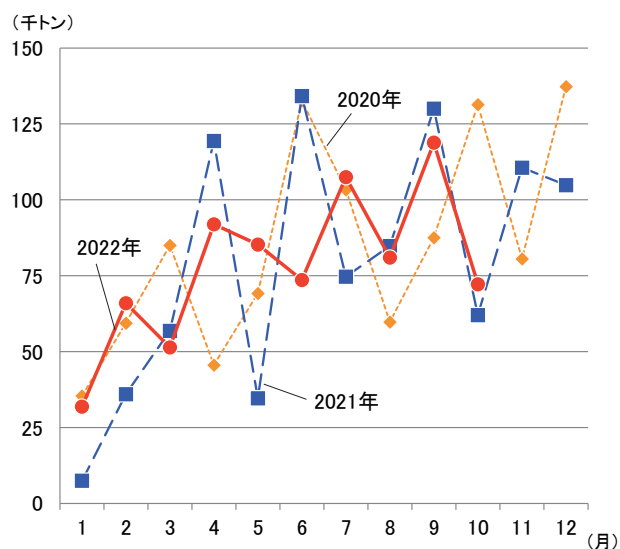
米国 19トン

（前年同月同、前月輸入実績なし）

豪州 7万2200トン

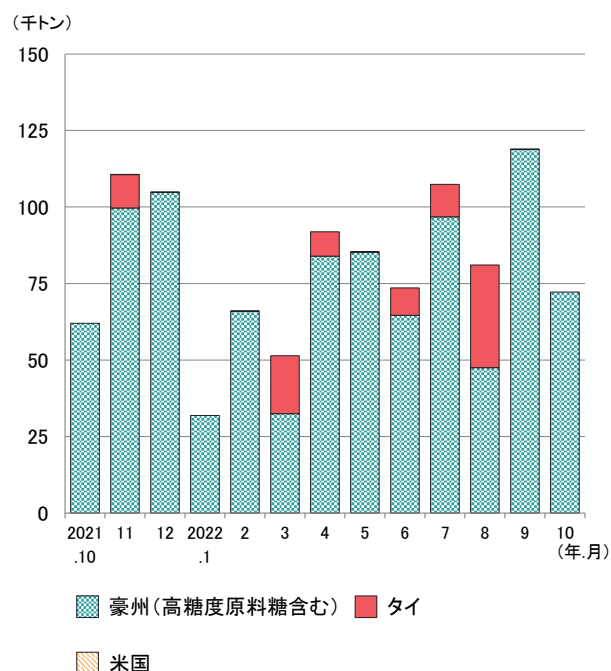
（前年同月比16.4%増、前月比39.2%減）

図1 粗糖の輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード1701.14-110、1701.14-200（豪州のみ）

図2 粗糖の国・地域別輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード1701.14-110、1701.14-200（豪州のみ）

2022年10月の甘しや糖・分みつ糖の1トン当たりの輸入価格は、19万6737円（前年同月比39.4%高、前月輸入実績なし）であった（図3）。

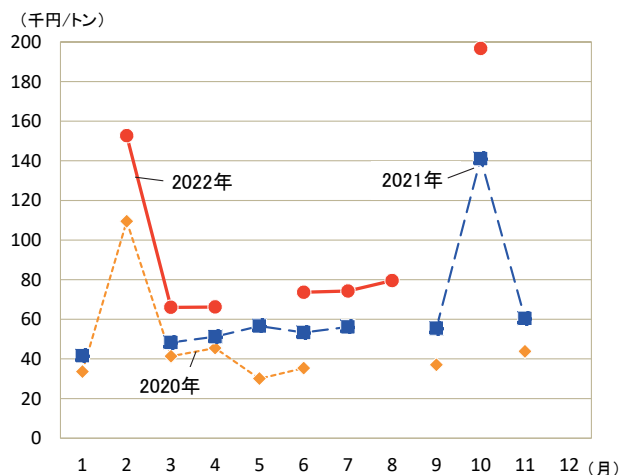
国・地域別の1トン当たりの輸入価格は、次の通りであった。

米国 19万6737円

（前年同月比39.4%高、前月輸入実績なし）

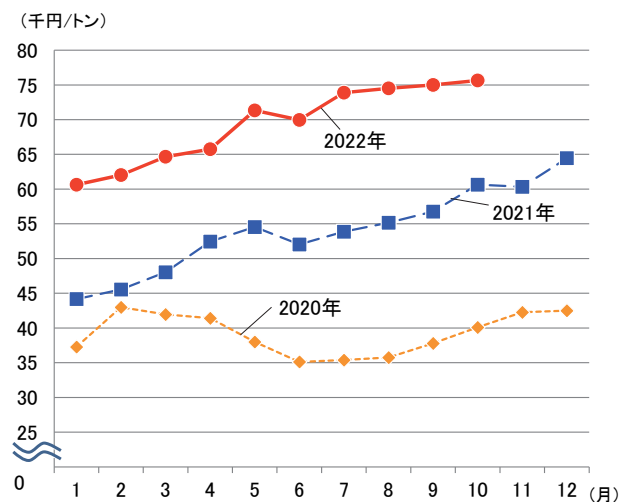
また、同月における甘しや糖・その他の豪州からの高糖度原料糖の1トン当たりの輸入価格は、7万5661円（前年同月比24.8%高、前月比0.8%高）であった（図4）。

図3 粗糖（HSコード1701.14-110）の輸入価格の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：2020年7月、8月、10月、12月、2021年2月、8月、12月、2022年1月、5月および9月は輸入実績なし。

図4 高糖度原料糖（HSコード1701.14-200の豪州）の輸入価格の推移



資料：財務省「貿易統計」

【含みつ糖の輸入動向】

10月の輸入量は前年同月から大幅に減少

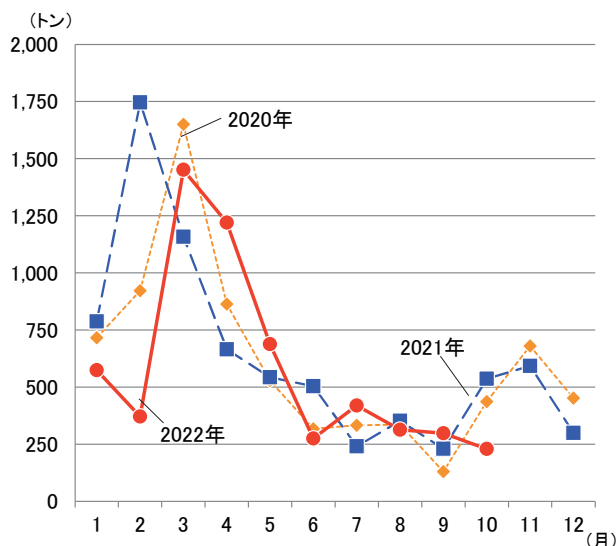
財務省「貿易統計」によると、2022年10月の含みつ糖（HSコード 1701.13-000、1701.14-190）の輸入量は、229トン（前年同月比57.3%減、前月比23.2%減）であった（図5）。

輸入先は中国、フィリピンで、国・地域別の輸入量は次の通りであった（図6）。

中国 216トン
（前年同月比47.6%減、前月比15.3%減）

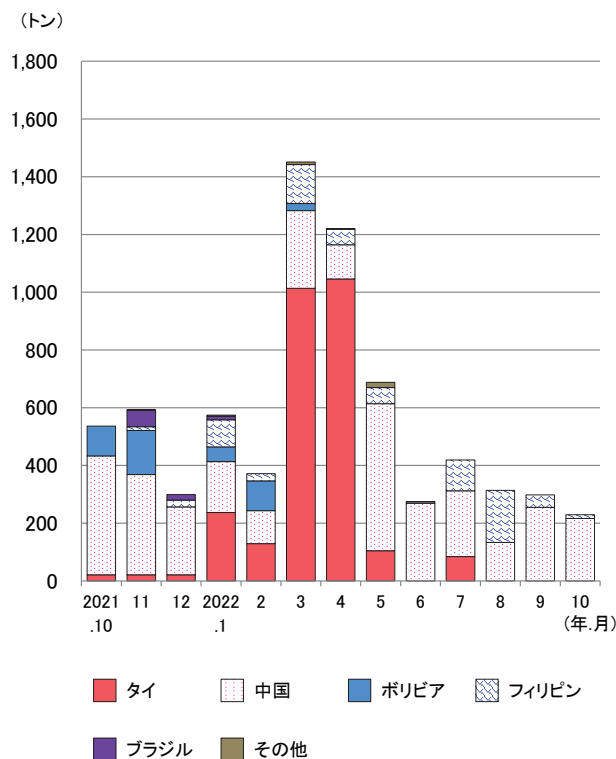
フィリピン 13トン
（前年同月輸入実績なし、同69.8%減）

図5 含みつ糖の輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード1701.13-000、1701.14-190

図6 含みつ糖の国・地域別輸入量の推移



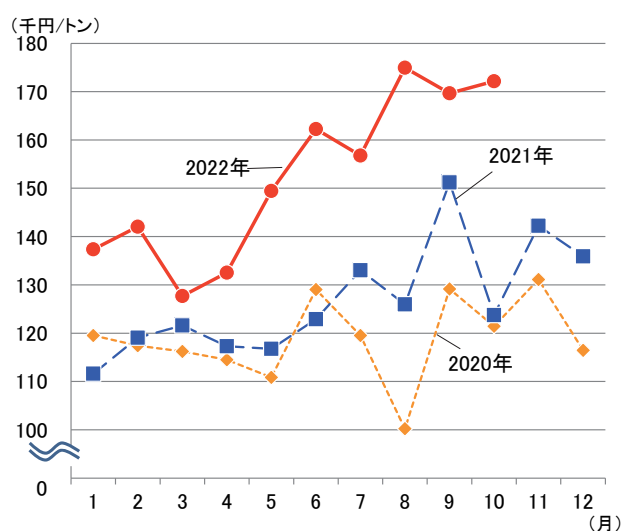
資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード1701.13-000、1701.14-190

2022年10月の1トン当たりの輸入価格は、17万2131円（前年同月比39.1%高、前月比1.5%高）であった（図7）。

国・地域別の1トン当たりの輸入価格は、次の通りであった。

中国 16万5972円
（前年同月比35.2%高、前月比6.0%高）
フィリピン 27万4462円
（前年同月輸入実績なし、同13.8%高）

図7 含みつ糖の輸入価格の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード1701.13-000、1701.14-190

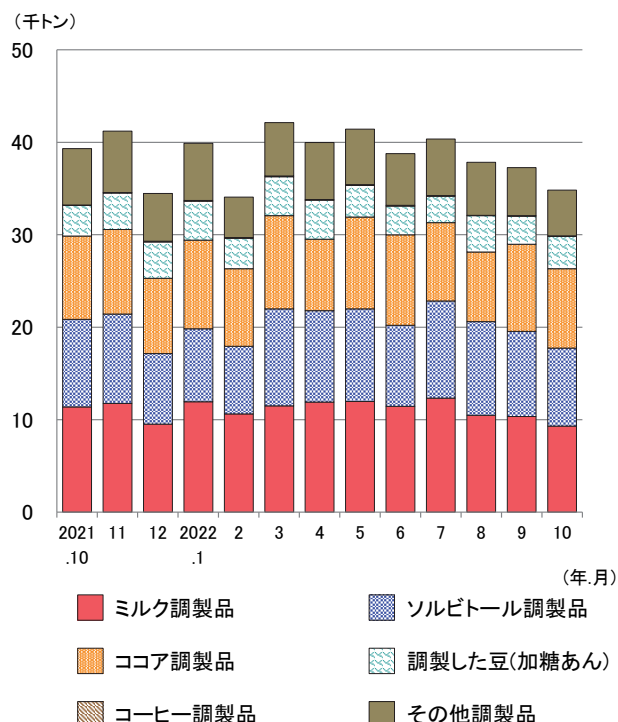
【加糖調製品の輸入動向】

10月の加糖調製品の輸入量は前年同月からかなり大きく減少

財務省「貿易統計」によると、2022年10月の加糖調製品の輸入量は、3万4826トン（前年同月比11.4%減、前月比6.5%減）であった（図8）。

品目別の輸入量は、表4の通りであった。

図8 加糖調製品の品目別輸入数量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：各品目のHSコードは、次の通り。
ココア調製品：1806.10-110、1806.10-190、1806.20-112、1806.20-113、1806.20-121、1806.20-129、1806.32-212、1806.32-213、1806.90-212、1806.90-213
コーヒー調製品：2101.11-110、2101.11-190、2101.12-111、2101.12-112、2101.12-246
調製した豆（加糖あん）：2005.40-191、2005.40-199、2005.51-191、2005.51-199
ミルク調製品：1901.90-219、2106.90-283、2106.90-284
ソルビトール調製品：2106.90-510
その他調製品：2008.99-218、2106.90-590、2101.20-246、2106.90-252、2106.90-253、2106.90-281、2106.90-282、2106.10-219

表4 加糖調製品品目別輸入量（10月）

区分	輸入量	前年同月比 (増減比)	前月比 (増減比)
ミルク調製品	9,306	▲ 18.2%	▲ 9.9%
ソルビトール調製品	8,436	▲ 10.9%	▲ 8.6%
ココア調製品	8,583	▲ 4.9%	▲ 8.8%
調製した豆（加糖あん）	3,492	6.5%	14.3%
コーヒー調製品	62	▲ 21.2%	89.9%
その他調製品	4,947	▲ 18.8%	▲ 4.8%
合計	34,826	▲ 11.4%	▲ 6.5%

資料：財務省「貿易統計」
注：端数処理の関係で計と内訳が一致しない場合がある。

4. 異性化糖の移出動向

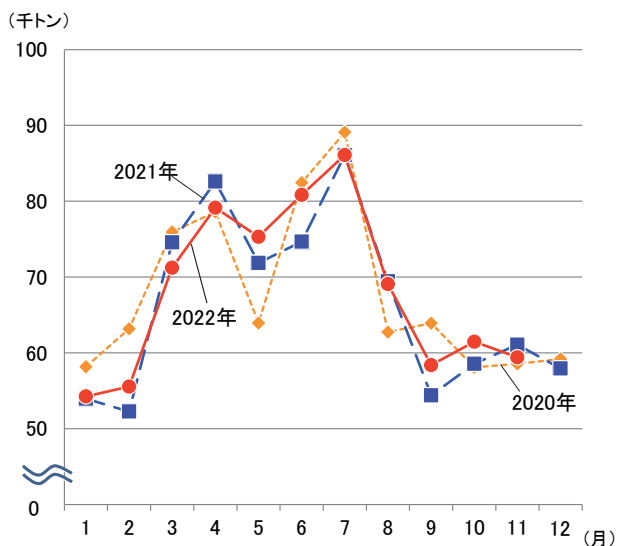
11月の移出量は前年同月からわずかに減少

2022年11月の異性化糖の移出量は、5万9398トン（前年同月比2.7%減、前月比3.4%減）であった（図9）。

同月の規格別の移出量は、次の通りであった（図10）。

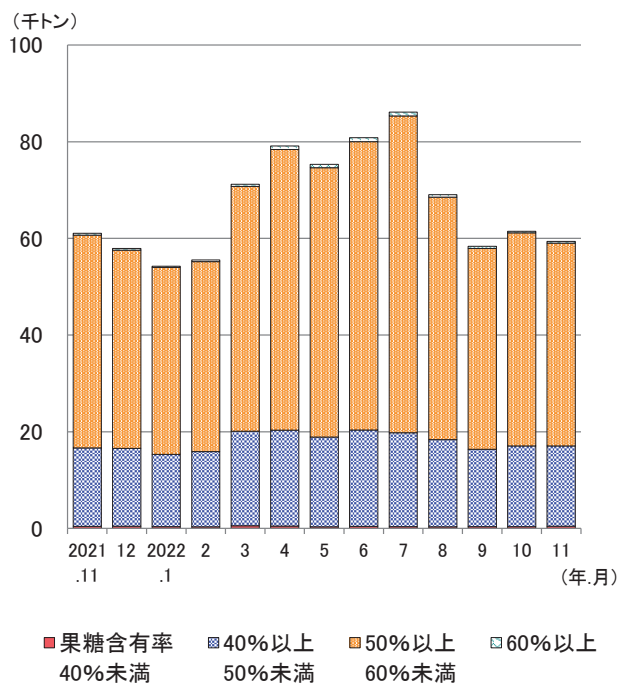
果糖含有率40%未満	454トン
（前年同月比14.6%増、前月比26.6%増）	
同40%以上50%未満	1万6599トン
（同2.0%増、同0.6%減）	
同50%以上60%未満	4万1976トン
（同4.7%減、同4.8%減）	
同60%以上	369トン
（同2.7%増、同10.9%増）	

図9 異性化糖の移出量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図10 異性化糖の種類別移出量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

5. 価格動向

【市場価格】

砂糖、異性化糖ともに前月と同水準で推移

11月の糖種別・地域別の砂糖価格（日経相場）は、次の通りであった。

上白糖（大袋）

東京	1キログラム当たり216～217円
大阪	同216～217円
名古屋	同220円
関門	同220円

上白糖（小袋）

東京	1キログラム当たり229～230円
大阪	同231円

本グラニュー糖（大袋）

東京	1キログラム当たり221～222円
大阪	同221～222円
名古屋	同225円

ビート・グラニュー糖（大袋）

東京 1キログラム当たり216～217円

大阪 同216～217円

名古屋 同218円

11月の異性化糖の価格（日経相場、大口需要家向け価格、東京、タンクローリーもの、JAS規格品、水分25%）は、次の通りであった。

果糖分42%もの

1キログラム当たり146～147円

果糖分55%もの 同152～153円

【小売価格】

11月の上白糖小袋の地域間の価格差は最大で32.9円

マーチャンドライジング・オンRDSPOS（全国1243店舗）によると、スーパーにおける11月の上白糖小袋（1キログラム）の平均小売価格は、225.2円（前年同月差22.4円高、前月差1.9円高）であった。最も高かったのは九州・沖縄で、最も安かった関西との価格差は32.9円であった。

同月の地域別^(注)の平均小売価格は、次の通りであった（表5）。

(注) 地域の内訳は、次の通りである（以下同じ）。

関東など：茨城県、栃木県、群馬県、長野県、山梨県、静岡県

首都圏：東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県

中部：新潟県、富山県、石川県、福井県、岐阜県、三重県、愛知県

関西：大阪府、兵庫県、京都府、滋賀県、和歌山県、奈良県

表5 上白糖の地域別平均小売価格（11月）

(単位：円/kg)

地域	平均価格	前年同月価格差	前月価格差
北海道	232.2	17.2	0.0
東北	224.2	19.2	1.5
関東など	217.1	18.2	4.2
首都圏	208.1	18.9	0.5
中部	219.0	23.1	1.3
関西	204.6	8.3	1.7
中国・四国	235.1	26.9	1.0
九州・沖縄	237.5	30.6	3.4
全平均	225.2	22.4	1.9

資料：農畜産業振興機構調べ（原典：マーチャンドライジング・オンRDSPOS（全国1243店舗））

注1：価格は、消費税抜きの価格である。

注2：平均価格は、店舗別商品別の最高価格の単純平均である。

注3：前年同月価格差および前月価格差は、マーチャンドライジング・オンRDSPOSデータ内における価格差である。

11月のグラニュー糖小袋の地域間の価格差は最大で73.7円

マーチャンドライジング・オンRDSPOS（全国1243店舗）によると、スーパーにおける11月のグラニュー糖小袋（1キログラム）の平均小売価格は、269.8円（前年同月差18.0円高、前月差2.6円高）であった。最も高かったのは関東などで、最も安かった北海道との価格差は73.7円であった。

同月の地域別の平均小売価格は、次の通りであった（表6）。

表6 グラニュー糖の地域別平均小売価格（11月）

(単位：円/kg)

地域	平均価格	前年同月価格差	前月価格差
北海道	230.3	18.1	0.8
東北	296.5	0.4	1.1
関東など	304.0	20.6	0.9
首都圏	266.3	2.0	0.2
中部	269.8	24.4	3.2
関西	254.1	10.6	0.5
中国・四国	259.8	16.7	3.9
九州・沖縄	269.7	26.8	4.8
全平均	269.8	18.0	2.6

資料：農畜産業振興機構調べ（原典：マーチャンドライジング・オンRDSPOS（全国1243店舗））

注1：価格は、消費税抜きの価格である。

注2：平均価格は、店舗別商品別の最高価格の単純平均である。

注3：前年同月価格差および前月価格差は、マーチャンドライジング・オンRDSPOSデータ内における価格差である。

11月の三温糖小袋の地域間の価格差は最大で41.2円

マーチャンドライジング・オンRDSPOS（全国1243店舗）によると、スーパーにおける11月の三温糖小袋（1キログラム）の平均小売価格は、256.6円（前年同月差18.0円高、前月差2.0円高）であった。最も高かったのは北海道で、最も安かった首都圏との価格差は41.2円であった。

同月の地域別の平均小売価格は、次の通りであった（表7）。

表7 三温糖の地域別平均小売価格（11月）

（単位：円/kg）

地域	平均価格	前年同月価格差	前月価格差
北海道	281.7	25.7	▲1.0
東北	269.1	22.7	▲0.2
関東など	245.5	11.3	6.6
首都圏	240.5	8.9	▲1.9
中部	262.5	21.2	1.6
関西	249.3	6.6	2.9
中国・四国	265.0	21.0	0.5
九州・沖縄	253.1	25.8	3.0
全平均	256.6	18.0	2.0

資料：農畜産業振興機構調べ（原典：マーチャンドライジング・オンRDSPOS（全国1243店舗））

注1：価格は、消費税抜きの価格である。

注2：平均価格は、店舗別商品別の最高価格の単純平均である。

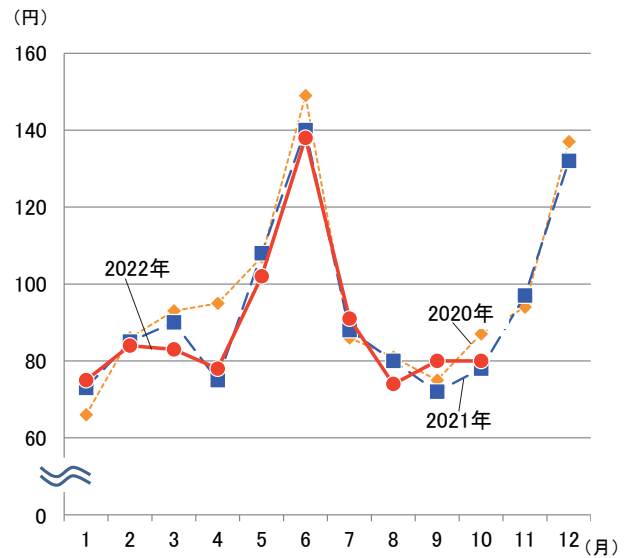
注3：前年同月価格差および前月価格差は、マーチャンドライジング・オンRDSPOSデータ内における価格差である。

【支出金額および購入数量】

10月の砂糖の支出金額は前年同月からわずかに上昇

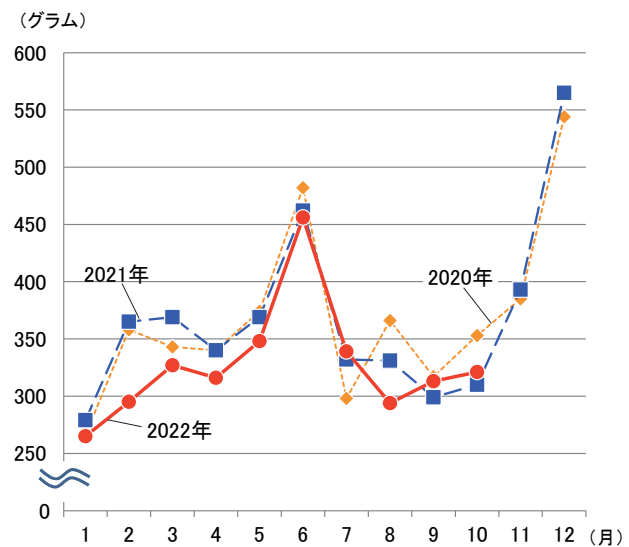
総務省「家計調査」によると、2022年10月における100世帯当たりの砂糖の購入頻度は31、1世帯（二人以上）当たりの支出金額は80円（前年同月比2.6%高、前月同）であった（図11）。また、同月の1世帯当たりの砂糖の購入数量は、321グラム（同3.5%増、前月比2.6%増）であった（図12）。

図11 1世帯当たりの砂糖に係る支出金額の推移



資料：総務省「家計調査」

図12 1世帯当たりの砂糖の購入数量の推移



資料：総務省「家計調査」